



消防出初式写真コンクールで
市長賞を受賞

一条義明さん

入山瀬久保(46歳)

「写真は六年前から始めたばかり、よい指導者がいて、運がよかつただけですよ。」と言う一条さんですが、これまで五回応募して、いずれも入選、一昨年にも市長賞を受賞している実力派です。

性格的に凝り性で、何かを始めると熱中しやすいタイプ。その辺が市長賞を呼び込んだのかもしれません。

盆栽・カラオケ・パソコンなど趣味はほかにも多彩、一男一女のやさしいお父さんです。



百一十七点の作品が寄せられたことしの出初式写真コンクールで一条さんは見事市長賞を受賞しました。

受賞作品は黒い制服姿の団員が行進している様子を、スローシャ

ツターで巧みにとらえたものです。

「昨年、作品に動きがないという講評があつたので、動きの出る作品を狙いました。でも、自信のない作品だったのに驚きました。」との感想。



なぎなたに魅せられて
大橋あさ子さん(桜ヶ丘町)

内藤さんは一月に行われた「全国きき酒選手権大会」で第十位に入賞しました。これは「純米酒」や「原酒」など六種類の酒を飲みわけるもので、県内では酒のわかる男ナンバーワン。

「大勢で飲むのが一番」と言う内藤さんですから、隣近所のコミュニケーションも円満で、飲めば愉快になる明るいお酒です。



渡辺伝次郎さん

石坂2(71歳)

我がまちを語る

住民参加が定着

団地のできる前の広見地区は、石坂、久保町などが点在するだけで、一面が畑でした。

今から二十五年ぐらい前に、広見団地をつくる話が持ち上がったとき、地元の人々は「団地ができる

れば自分たちの生活もよくなるに違いない」と協力的でした。当時、この地区の小学生は今泉小か大渕第一小へ通うしかなく、団地の造成により小学校が近くにできるということだけでも魅力でした。

そして今、博物館や福祉センターなど多くの公共施設ができ、住民はまちづくりに熱心です。独自の自治組織「広見コミュニティ」に示されるように住民参加が定着しているまちと言えます。

広見に生まれ育った子供もすでに成人となり、これからは新しい伝統が築かれていくと思います。行政には、団地の周辺地域の整備を要望したいですね。

あの人にこの人二んないこと

広見のスプリングターキー^{こういち}
佐藤公一君(広見町八)



毎朝五時を過ぎると、広見小学校のグラウンドでトレーニングに励む中学生がいます。この頑張り屋さんは佐藤公一君(岳陽中学校三年)。昨年夏、中学生陸上四百メートルで県東部一となり、全国大会では準決勝まで進みました。

現在は陸上界に名選手を送り出している吉原商業高校進学を目指して勉強中です。